

第 1 回伊豆の国市行財政改革推進委員会議事録

開催日時	令和元年 12 月 17 日（火）午後 3 時 20 分から午後 5 時 0 分まで
開催場所	伊豆の国市役所伊豆長岡庁舎 3 階第 3 会議室
出席した 委員	増井明弘委員、水口始委員、菊池之利委員、遠藤富美子委員、久保田尚徳委員、杉田昌代委員、前田泰宏委員、土屋ゆみ子委員 以上 8 人（欠員なし）
関係者及 び事務局	政策推進課職員（菊地課長、遠藤係長、久保田主査） 以上 3 人

議事の経過

1 開会

小野市長による委嘱状交付に引き続き、第 1 回委員会を開催した。

2 市長戦略部長あいさつ

この委員を引き受けていただきありがとうございます。過去には、大量の資料を送付し、事前に読み込んでいただきたくなど、会議参加に大変な労力をお願いしたこともあったが、本委員会は、行財政改革を所掌するものである。委員の皆様の負担軽減も含め、委員会の進め方等について“改革”をするよう、事務局に指示をしてある。

委員会の運営にあたり、改善を意識するが、至らぬ点等があれば事務局へご意見をいただきたい。2年間、どうぞよろしくお願ひしたい。

3 自己紹介

委員、事務局の順により自己紹介を行った。

4 会長選任

自薦、他薦を確認した後、運営規程に基づき委員内による互選により選考した。

委員による選挙の結果、増井委員が会長に決定した。

5 会長あいさつ

就任にあたり、増井会長は、事務局に次の 3 点を確認した。

- ①まち・ひと・しごと創生総合戦略と総合計画の位置づけ・関係性について
- ②PDCA を回していく方法について
- ③委員に求められているものについて

【事務局からの回答】

- ①まち・ひと・しごと創生総合戦略と総合計画の位置づけ・関係性について

第 1 期総合戦略は、後から策定した総合計画に内包した位置づけとなった。総合計画の一部を担うことになる。第 2 期の策定にあたりタイミングが合えば、一緒に作ってよいとの国からの通知もあるが、本市は、策定の時期が異なるため、別々に作ることになる。

- ②PDCA を回していく方法について

この委員会でいただいた意見を、各担当課へフィードバックしていく。そのやり方は、何をするか、どのように活用していくかによって異なってくると思っている。

③委員に求められているものについて

総合戦略については、第1期の進捗管理を行うものである。30年度実績について市が行った評価について、妥当か否かなどをの意見をいただきたいと考えている。第2期については、特に骨子について、意見をいただければと思っている。

委員に伺う内容によって、委員に求めるものが変わってくることもあるので、ご理解いただければと思っている。

増井会長は、運営規程に基づき会長代理に水口委員を指名した。

6 議事

増井会長は、運営規程に基づき議事録署名人に水口委員を指名した。

①伊豆の国市行財政改革推進委員会について

事務局が資料1に基づき説明を行った。

質疑等なし。

②伊豆の国市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

事務局が資料2に基づき説明を行った。

「第1期総合戦略30年度実績について、市が分析・評価した内容が妥当であるか」ということと、「今後の第2期総合戦略の策定方法について」委員から意見を求めた。

【第1期総合戦略 30年度実績について】

- ・評価より中身（本質）を見るべきではないか。
- ・機械的に評価を行うのではなく、委員の意見として、数字ではない評価をもらった方が、今後の改善につながるのではないか。
- ・機械的に振り分けだもので「分析」といえるのかは疑問である。
- ・「こういう風に進めているがどうか」というような確認の方法があっても良いと思う。
- ・単純にAの数から全体の評価を導き出すのではなく、項目によって同じA評価でも重さ（重要性）が違うものもあるのではないか。今後、KPIを見直すのなら、項目によって重さを変えるなどの工夫があってもよいと思う。
- ・せっかく、昨年度、事務事業等評価についてこの委員会でも触れたのだから、基本目標に対するアウトカムだけでなく、それぞれにぶら下がっている事業について載せて、それらの評価を示してもよいのではないか。
- ・時代はどんどん動いている。時代に合った事業に変えていっていただきたい。その方が評価もしやすいと思う。
- ・ぜひこれら意見を今後の参考にしていきたい。

- ・評価の妥当性については、このような機械的・定量的な評価も方法の一つではある。
- ・第1期総合戦略30年度実績について、市が分析・評価した内容は妥当であるとの判断を委員一同から受けた。

【第2期総合戦略の策定方法について】

- ・この資料（骨子）だけでは、全体が見えない。
- ・新たな視点「最先端技術の活用」「協働の強化」「多様な人材の活躍促進」「関係人口の創出・拡大」という表現は、便利で使いやすい言葉であり、それらを計画に盛り込むには抽象的過ぎる言葉である。
- ・一口に協働といっても非常に難しい。
- ・一番重要視するのは「協働」ではないだろうか。一番上位に来るべきではないか。
- ・民間と行政に距離を感じる。協働は、非常に難しい問題である。
- ・力仕事は特に人材不足である。最先端技術を活用してほしい。
- ・この前までは、伊豆の国市は農業において先進的な取り組みを行っていたが、今ほどの自治体でも同じようなことが行われている。もっと特徴的で、儲かるようなビジネスモデルに取り組んでほしい。
- ・市に仕事を作るといっているが、そもそも人材不足・担い手不足である。
- ・仕事を作るといふより、どうマッチングしていくのかが重要になってくるのではないか。協働の強化を前面に押し出すべきではないか。

事務局は、上記意見に対し、次のとおり回答した。

現在、次の計画を策定中である。今後、どのような方法により委員から意見をもらうか、委員の意見をどのように反映していくか等も含めて検討中である。

行政の立場として委員の意見の全てが反映できるとは答えにくいところもある。

いただいた意見を参考に、これからの計画を作っていければと思っている。

7 その他（次回予定等）

委員全員の日程の都合がつかず、その場では決定できなかった。

（後日、委員へ日程調整を行い、次回開催を2月12日（水）14時開始に決定した。）

【閉会】 17:00

事務局 市長戦略部政策推進課

連絡先 055-948-1413

課メール seisaku@city.izunokuni.shizuoka.jp